



TOKYO PARK GARDEN AWARD

@ 代々木公園

コンテスト作品集

2022年10月－2023年11月



目 次

2	第1回 東京パークガーデンアワード 代々木公園
3	コンテストのテーマとスケジュール
4	会場の概要
5	作庭時のルール
6	モデルガーデン the cloud クラウド
10	月々の変化と月々の植物
12	審査基準と審査方法
13	第1回 東京パークガーデンアワード授賞式
14	エリアA Changing Park Garden ～変わりゆく時・四季・時代とともに～
20	エリアB Layered Beauty レイヤード・ビューティー
26	エリアC Garden Sensuous ガーデン・センシュアス
32	エリアD TOKYO NEO TROPIC トウキョウ・ネオ・トロピック
38	エリアE HARAJUKU 球 ガーデン ハラジュク・キュー・ガーデン



第1回コンテストのテーマ

宿根草等を活用し、
見た目の美しさや
スタイルだけではなく、
持続可能な社会に相応しく、
ロングライフ・
ローメンテナンスな花壇

*ロングライフ・ローメンテナンスな花壇とは、丈夫で長生な宿根草や球根植物を中心に、季節ごとの植え替えをせずに、主に植えっぱなしの宿根草で、異なる季節に開花する花壇。

都立公園を花の魅力で彩る画期的コンテスト 「第1回 東京パークガーデンアワード 代々木公園」

新しい発想を活かした花壇デザインを競うコンテストとして、2022年8月下旬にエントリー募集からスタートした「第1回 東京パークガーデンアワード 代々木公園」。東京・渋谷区の都立代々木公園の一角を舞台に、審査を通過した5つのコンテストガーデンとガーデンデザイナーで審査員の一人である吉谷桂子さんによるモデルガーデン「the cloud」が2022年12月から一般公開されました。

無料公開されたこの場所は、2023年に都内にできた最新のガーデンスポットとして注目され、日々成長し変化する花壇は、多くの人々に楽しまれていました。

この「東京パークガーデンアワード」は、花壇のデザインはもとより、植物や土壌の高度な知識が求められる、今ま

でのものとは一線を画すガーデンコンテストです。書類審査を通過した5名には、制作費として300万円を上限に支給され、5つの異なるデザインの花壇が作られました。



2022年12月に行われた1回目のガーデン制作に関わった皆さん。審査員の正木寛さんと吉谷桂子さんを囲んで。



コンテストガーデンができる以前の様子。オリーブやハナミズキの既存の樹木はそのままに、芝地が花壇に整地されて花壇エリアが作られました。



オリーブやハナミズキを背景にした宿根草による5つの花壇は、季節ごとに様々な花が咲き継ぎ、訪れる人々に花と緑の豊かな彩りを楽しんでもらえました。

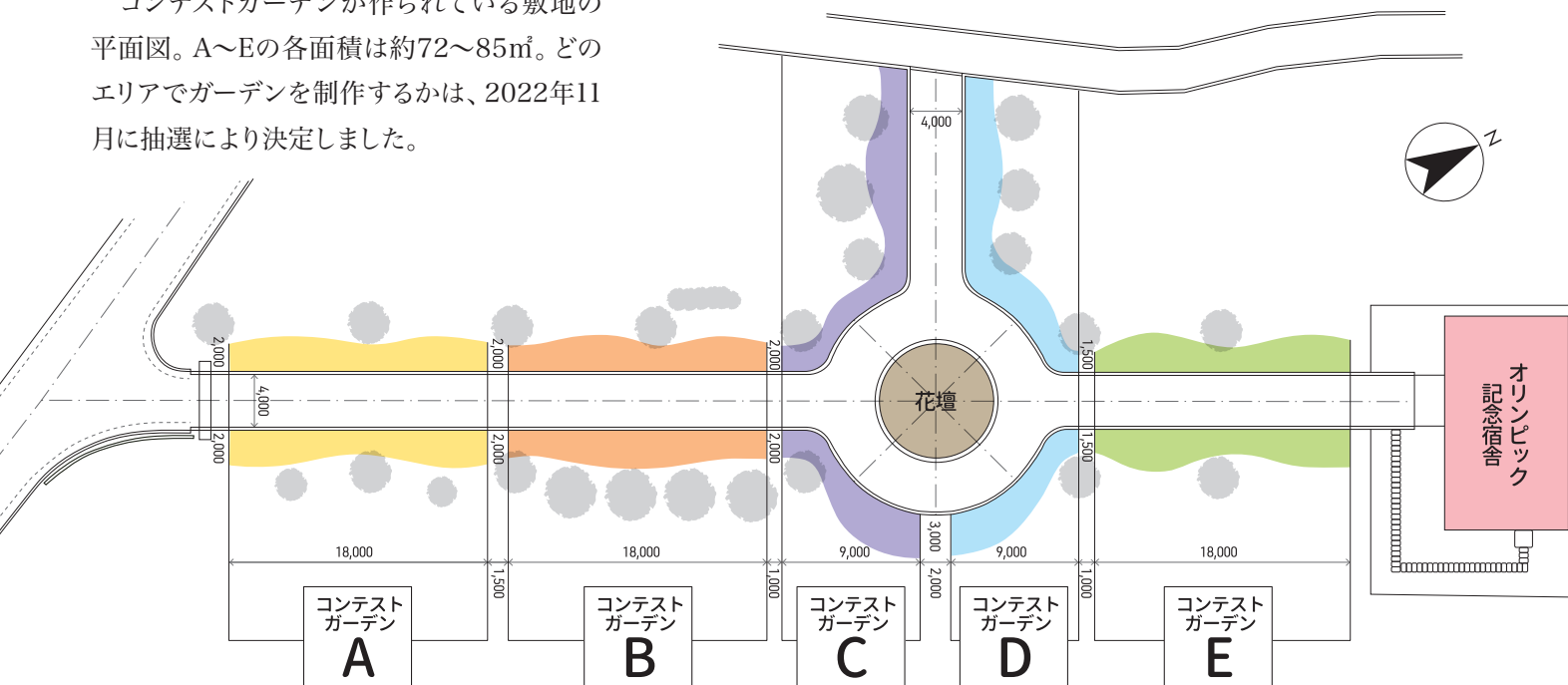
第1回 東京パークガーデンアワード 代々木公園 最終審査までのスケジュール



2022年8月下旬のエントリー募集後、10月に5名の参加者が決定。同条件に整地された花壇を、12月に1回目のガーデン制作、2023年2月下旬に2回目の植え付けや手入れがされました。4月から11月に3回の本審査が行われたあと、11月下旬に授賞式が行われました。

5つのガーデンが競い合うコンテストの舞台、 代々木公園オリンピック記念宿舎前広場

コンテストガーデンが作られている敷地の
平面図。A～Eの各面積は約72～85㎡。どの
エリアでガーデンを制作するかは、2022年11
月に抽選により決定しました。



コンテストガーデンとモデルガーデンがあるのは、JR山手線「原宿」駅から徒歩3分の「都立代々木公園」の中。原宿門から入ってすぐ右手の「オリンピック記念宿舎前広場」です。敷地の奥は、緑深い明治神宮の森が背景となり、日当たりがよい開けた場所です。



コンテストガーデンの入り口付近にも、
吉谷桂子さんによる花壇が作られて
います。早春は、アネモネ、春はアリウ
ム、初夏は、リクニス・コロナリア、夏は
サンジャクバーベナと、季節毎に花が
咲き継ぎ、奥のエリアへと誘います。



都立代々木公園 オリンピック記念宿舎前広場
住所：東京都渋谷区代々木神園町、神南二

第1回 東京パークガーデンアワード 代々木公園 作庭時のルール



デザイン・植物について

- ガーデンオーナメントなどの設置は可能ですが、公園という環境における安全性や耐久性も審査対象です。
- 国内市場で流通している植物のみ使用可能です(採取した植物は使用できません)。
- 植物は宿根草などを使用してください。なお、高さ2m以下に限りです(樹木は使用できません)。
- 事前に提出された植物リストに沿って苗や球根、道具類などを作庭者が用意してください。



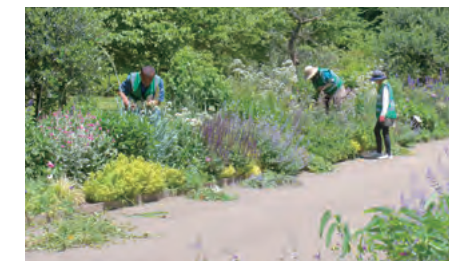
土壌について

- 花壇の基礎土壌には、多孔質人工軽量土壌を使用しています。
- 作庭時に施肥など土壌改良が可能です。



メンテナンスについて

- 補植は可能。
- 最低限植物の状態を保つ灌水は主催者が行いました。
- 薬剤散布は公園の規定によりできません。
- 作庭者によるメンテナンスは、計画や予定を申請して行われました。



1 自然な雰囲気、季節ごとの変化を感じられる庭。エコロジカルな機能性にデザインの創造性を感じさせるデザインですが、基本的にロー・メンテナンスを目指した設計です。

2 生物多様性に柔軟な植物構成（農業不使用、蝶の好む品種などを中心にして昆虫も共存）。

3 ロー・インプット（丈夫で長生きな宿根草や球根植物を選び、季節ごとの植え替えをせず、主に植えっぱなしの宿根草で、異なる季節の花の開花があること）。

4 猛暑・大雨、逆に雨が降らず極度の冬にも耐えうる植物の選択。対処し得る花壇の構造を設計し、21世紀の日本における存続可能な草花選び（日本原産や身近な植物にも着目）をしています。同時に、装飾性も感じられる庭。庭の一部に、写真映えするスポットや注目の草花が咲くことにも配慮していますが、それは、桜のころやゴールデン・ウィーク、夏休みといった集客時期に合わせた開花品種を選んでいきます。冬の枯れ姿も味わいある眺めとしたい。

5 宿根草により完成された根張りの植物コミュニティを形成（雑草が生えにくくなる）するには、通常3年ほどの期間が必要となりますが、期間が限定されるため、初年度はなるべく土の余白を残さず、雑草の入り込む余地を与えないためと、ある程度の華やかさを補足するため、まめな花殻摘みが必要としない一年草も設計に加えています。

6 モデルガーデンのデザイン名である「the cloud」の構造は、地面から10～30cmほどのレイズドベッド（盛り土花壇）構造であり、水捌けや風通しを確保しながら、低い植物にも見栄えのよい構造です。花壇に個性を与えるために雲海のような膨らみの強弱のある形は、一般のボランティア・スタッフにも、作業・維持管理のしやすい構造デザインとするため、花壇の幅は浅く、土に踏み込まなくても手入れのしやすい構造となっています。



設計時のイメージスケッチ。



7月のthe cloud。

モデルガーデン

the cloud クラウド

今回制作する「モデルガーデン」は、21世紀に入って世界的に注目されているナチュラリスティック（自然主義的）ガーデン（例：ロンドン・オリンピック・パーク、ニューヨーク・ハイライン、近年注目されているイギリスのハウザー&ワース、他にオランダ、ベルギー、パリの公共公園に見られる事例）の傾向に近いです。ただし、東京・代々木公園や明治神宮の森に調和した自然や季節の巡りを考慮して、なおかつ、アートフォーム（デザイン性）があり、折々に花が咲く、人々に庭や自然の眺めの楽しさを提供するような植栽設計を目指します。



この地に初めて立った時、目の前の木々がまるで雲のように茂っていたことに着想を得て、絵画的に図面が決まった。

吉谷桂子

東京生まれ。日本大学芸術学部デザイン科卒。（株）GKインダストリアルデザイン研究所勤務後、フリーランスのプロダクト、グラフィック・デザイナー、広告美術ディレクターを経て1992年に渡英。帰国後は7年間の英国在住経験を活かしガーデンライフを提案を続け、ガーデンデザイナーとしてテレビや雑誌、ガーデンショーと幅広く活躍している。現在デザインを担当するガーデンは、銀河庭園、はままつフラワーパーク、中之条ガーデンズなど。著書に「花に囲まれて暮らす家」（集英社）ほか。



2月



3月



4月



8月



10月



5月



9月



11月



6月



7月

11月



the cloud 作庭から1年を迎えて

吉谷桂子

2023年は命の危険を感じるほどの人生で最も暑い夏でした。国連グテーレス事務総長の「地球沸騰化」発言は現実と受け止め、今こそ持続可能な庭と植物の可能性を本気で探るべき、植物達もこんな酷暑は彼らのDNA史上初めてだったはずです。さて、私たちは予め長雨や干ばつにも植物が耐えられるよう地面に高低差を設け土中環境で微生物を豊かにする工夫やそれぞれの環境に合う植物を選びましたが、夏は予想外に雨が降らず植物達が弱った所で大雨。選び抜いた植物も一部が病害虫に屈する事態に…。しかし作庭から1年、大部分は生き抜いて無農薬で生物多様性を維持しながら、11月には美しく咲く花にも出会えました。この1年の経験と学びで十分とはいえませんが、人と植物、自然と協調する庭の未来への希望が持てたのも事実です。今後の気候変動への不安は拭えませんが、エコロジーと強く美しい植物の存在を知ること、人の心を癒やし豊かにする庭の可能性は広がる。要はそれを「発見」し「行動」すること。そんなガーデンの未来に大きな期待の持てた1年でした。

月々の変化

12月の作庭後、霜が降りる日があるほど寒い冬を経て、2月からは徐々に暖かい日差しが届き、3月には徐々に緑が増えていきました。4月は一気に成長が進み、次々と開花リレーがスタート。6月からは早くも日差しが強くなり、雨の少ない梅雨が過ぎ、長い夏は9月中旬まで継続。長い酷暑を超えて11月はやっと秋の彩りへと変わりました。



月々の植物

ロングライフ・ローメンテナンスをテーマに選ばれた多数の植物は、3月から11月の間、バトンタッチをするように花壇を彩りました。なかには3〜4カ月長く咲き続けた種類もありました。



3月 (Aエリア)
アネモネ・デカン



3月 (Bエリア)
スイセン 'ペーパーホワイト'



4月 (Bエリア)
ラナンキュラス・ラックス'アリアドネ'



4月 (Eエリア)
アリウム・シルバースプリング



5月 (Cエリア)
エリンジウム'ブルーグリッター'



6月 (Aエリア)
アガパンサス'バイオレットキング'



7月 (Cエリア)
エキナセア・ブルブレア



7月 (Bエリア)
アガスターシェ'ブルーフォーチュン'



8月 (Aエリア)
ヘレニウム'レッドシェード'



8月 (Dエリア)
ルドベキア・サブメントーサ'ヘンリーアイラーズ'



9月 (Dエリア)
ガウラ



10月 (Eエリア)
ガイラルディア'グレープセンセーション'



10月 (Cエリア)
カラミンサ・ネバトイデス



11月 (Bエリア)
ノコンギク'夕映'



11月 (Bエリア)
アネモネ (シュウメイギク) 'パミナ'

審査基準と審査方法

審査は4月、7月、11月の3回。4月は、春の見ごろを迎えた観賞性を評価する「ショーアップ審査」、7月は、梅雨を経て猛暑に向けた植栽と耐久性を評価する「サステナブル審査」、11月上旬には秋の見頃の鑑賞性と年間の管理状況を評価する「ファイナル審査」の3回の審査を経て、11月に受賞作品が決まりました。

審査基準

- ・公園の景観と調和していること
- ・公園利用者のためのデザインであること
- ・公園利用者が美しいと感じられること
- ・造園技術が高いこと
- ・四季の変化に対応した植物（宿根草など）選びができていていること
- ・「持続可能なガーデン」への配慮がなされていること（ロングライフ）
- ・メンテナンスがしやすいこと（ローメンテナンス）
- ・デザイナー独自の提案ができていていること
- ・総合評価

各審査は別途定める規定に従い、審査委員による採点と協議により行われました。

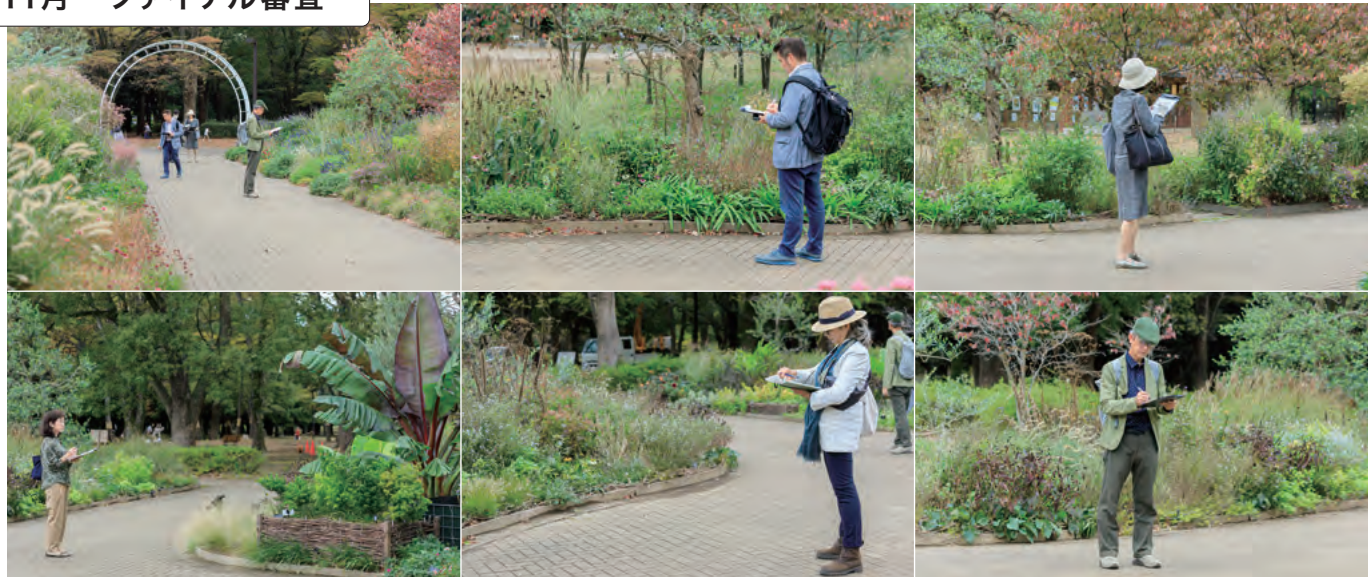
4月 ショーアップ審査



7月 サステナブル審査



11月 ファイナル審査



第1回 東京パークガーデンアワード授賞式

11月上旬に行われたファイナル審査を経て、作庭者5名の授賞式が11月下旬に東京都内会場にて行われました。式典では、審査員による講評が伝えられました。また、授賞者による喜びのスピーチも行われました。



GreenPlace 山越健造さん 高橋三和子さん



鈴木 学さん



西武造園 永江晴子さん

審査員（敬称略）



福岡 孝則（ふくおか たかのり）
東京農業大学地域環境科学部 准教授



正木 覚（まさき さとる）
環境デザイナー・まちなか緑化士養成講座 講師



吉谷 桂子（よしや けいこ）
ガーデンデザイナー



佐々木 珠（ささき たま）
東京都建設局公園緑地部長



植村 敦子（うえむら あつこ）
（公財）東京都公園協会 常務理事

審査員特別賞

Changing Park Garden ～変わりゆく時・四季・時代とともに～



畑や かとうふあーむ 渡部陽子さん

入賞

HARAJUKU 球ガーデン ハラジュク・キュー・ガーデン



平間淳子さん



左上／さまざまな宿根草が花穂をあげる6月上旬。上／ペロニカ'ファーストキス' (ピンク花) やセントランサス・アルバス (白花) などが力強く咲く6月上旬。



審査員特別賞

Changing Park Garden

～変わりゆく時・四季・時代とともに～

Garden designer

畑や かとうふあーむ 渡部陽子 (新潟県新潟市)



応募時に提出された夏の宿根草のイメージ図。



12月作庭時、圃場で1～3年以上育てられた大きな株を植え付け。

作品のテーマ・創作意図

時間や四季の移ろいと共にドラマチックに展開する宿根草ガーデンは見る人の心を豊かにします。たとえば秋の夕景は、光が植物たちの魅力をいっそう引き出してくれる、もっとも美しい時間でしょう。

公園の緑花空間は、来園者に感動や癒やしを提供する場所であり、さらに植物を通してコミュニティが生まれ「共感」の時代へと変化しつつあります。人々に愛される場所であることが真の持続可能なガーデンとなるのではないのでしょうか。さまざまな意味で変化する公園のガーデン《Changing Park Garden》をテーマに、

- ◆Chillax (チラックス)
- ◆Community (コミュニティ)
- ◆Challenge (チャレンジ)

3つの「C」をコンセプトにガーデンデザインを計画します。





2月



3月



4月



6月



●主な植物リスト

サルビアネモローサ カラドンナ/ユーフォルビア ウルフエニー/エキナセア パープレア/アガスター
 シェ ゴールデンジュビリー/ネベタ シックスヒルズジャイアント/ヘリオプシス ブリーディングハーツ
 /サルビア ミスティックスパイヤーズ/アジュガ ディキシーチップ/ペニセタム ピロサム/カレックス
 フェニックスグリーン/ペニセタム テールフェザー/アリウム イエローファンタジー など 合計 84 種



5月





8月



9月



11月



10月

審査員講評

エントランスを飾るに相応しい、華やかなガーデンでした。色・質感がバリエーションに富んでいて、園路の際いっばいまで活用した伸びやかな造形が公園の景色に調和すると共に、他にはない個性となっていました。慣れない東京の環境、遠方からの参加という厳しい条件の

中で手入れのタイミングを逃してしまった時期も見うけられましたが、ローメンテンスのもと最終審査の頃にはしっかりと再生させた手腕も見事で、秋には大きく育った宿根草の魅力や存在感が抜きん出ていました。年間を通じて、宿根草の豊かな表情の変化を見せてくれました。



Garden designer

畑や かとうふあーむ 渡部陽子 (新潟県新潟市)

新潟県内の大学を卒業後、1997年に新潟市内の造園会社に就職。建物外構植栽、屋上ガーデン、市内ガーデンなどのデザイン・施工・維持管理を手がけ、20年勤務。2018年、畑や かとうふあーむで植物苗の生産に携わりながら、ガーデンデザインや施工、講師活動を通して植物の魅力を伝えている。

【授賞者のコメント】

応募のきっかけは、このコンテストのテーマやコンセプトに魅力を感じたからです。宿根草と球根草花がつくる四季の移ろいと考えるだけでワクワクしました。そして宿根草生産者である私共のチャレンジでもありました。代々木公園は歴史ある公園です。木々の雄大な姿に魅了され、この環境に馴染み、以前からあったようなガーデンを表現するため株が充実した大苗を多く取り入れました。

春はアネモネ、原種系チューリップやアリウムが次々と咲き宿根草の花々へバトンタッチする花のリレーを大切に表現しました。

5月初旬は様々な宿根草が咲き誇り美しいガーデンとなりました。しかし6月の大雨のタイミングでメンテナンスを逃したのは最大のミスでした。大きく育ちすぎた株は倒れ見映えも悪く最悪。仕方なく秋の景色をイメージしながらのカットバックに切り替えることとしました。その甲斐あって一切支柱を使うことなく秋は植物の個性が光る色彩豊かなガーデンとなったと感じています。夏の酷暑と冬の乾燥、東京と新潟との気候の違いに苦労しましたが、多くを学んだ充実した一年となりました。この経験を活かして地元新潟でも宿根草の魅力を伝え広めていきたいと思っています。



左上／エリンジウムやアキレア、クラスペディア・グロボーサが咲く6月。上／4種のムスカリや12種のチューリップが咲く4月。

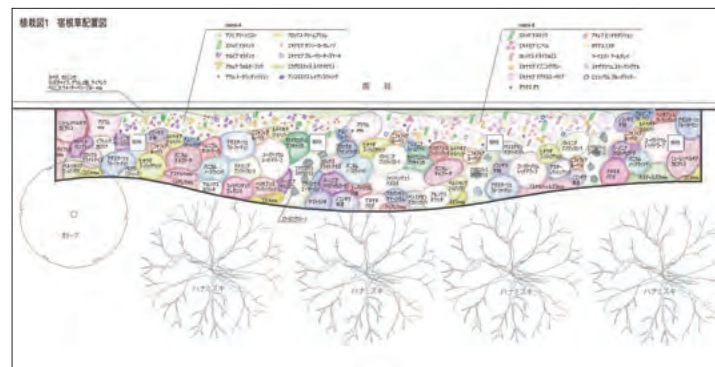


Layered Beauty

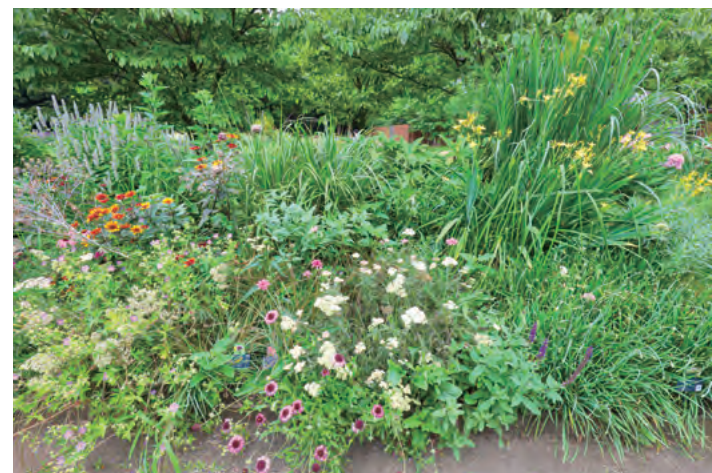
レイヤード・ビューティー

Garden designer

鈴木 学（宮城県伊具郡）



応募時に提出された宿根草配置図。



5～6月から咲き続けている花と7月に咲き始めた花、これから開花する蕾が一緒に見られる7月中旬。

●主な植物リスト

〈グラス類〉パニカム チョコラータ/カラマグロスティス プラキトリカ/ミスカンサス モーニングライト/ルズラ ニベア/スキザクリウム スモークシゲナルなど

〈宿根草（高）〉ユーバトリウム レッドドワフ/バトリニア プンクティフローラ/ヒオウギ ゴーンウィズザウインド/フィリペンデュラ ベヌスタなど

〈宿根草（中）〉エキナセア（オレンジパッション、マグナス スーベリア他）/ヘリオプシス プリーディングハーツ/アムソニア ストームクラウドなど

〈宿根草（低）〉ゲウム マイタイ/アリウム（サマービューティ、イザベル、メデューサ）/ペロニカ ウォーターベリーブルー/カラミンサ ブルークラウドなど

〈日本由来の植物〉イカリソウ（4-5 種）/ヤマトラノオ/コンギクタ映/ユーバトリウム羽衣/シュウメイギク パミナなど

〈一年草・二年草〉ラークスパー/アンスリスクス/アンミ/フロックス クリームブリュレ/タゲテス ミヌタ/クラスペディアなど

〈球根類〉フリチラリア（ラッデアナ、ベルシカ、エルウェシー）/シラー ミスクトスケンコアナ/クロッカス プリンスクラウス/ミニチュールリップなど
合計 142 種



作品のテーマ・創作的意図

季節を感じる宿根草ガーデンを作る
ということは、さまざまなレイヤーを組み
合わせて、美しさを構築するということ
だと考えています。

植物のレイヤー・時間差のレイヤー・
バランスのレイヤー・地下部のレイヤー

これまで、多くのデザイナーやガーデ
ナーとの交流の中で、どの植物がガー
デンの中でどんな役割を果たしている
のか、また、どんな植物が耐久性がある
のか、今後どういった植物を提案したら
よいかなどについて蓄積してきた引き
出しとアイデアがあり、それらを、今回
提案できればと考えました。デザインに
おいては、感性だけではなく、植物生
産者としてサステナブルで、かつ美しく
見える植栽の構築について理詰めでデ
ザインする(＝一般化できる)手法を取
り入れ、その過程をオープンにできれ
ばと思っています。



2月



3月



4月



5月



6月



7月



8月



9月



10月



11月

審査員講評

一年中見どころの絶えないガーデンで、スタートから全力投球でのパフォーマンスに感服させられました。特に春、夏は、植物の色や質感の重厚なレイヤーが圧巻の美しさを作り出していました。

確かな技術のもと引き出された多種の植物のパフォーマンスを間近で見ることができ、プロのガーデナーにとっても、今年のよ

うな酷暑にどの植物が効果的に、美しく、サスナブルに生きていけるのかを学ばせてくれる素晴らしいチャンスとなりました。

思わず写真を撮りたくなる風景が四季折々に作られ、人々を惹きつける“植物の力”を再認識できるガーデンであったと感じます。

【授賞者のコメント】

宿根草生産者として提案したい事、試してみたい事(植物や組み合わせなど)がたくさんあり、思い切って応募しました。コンテストの終わりを迎えるにあたって、シーズンの最後まで完走できた(大きなダメージを与えることなく夏越しができ、秋の景色を作ることができたこと)にほっとしています。

春先は、球根をたくさん植えたこともあり、華やかなガーデンになりました。そこから5月までの球根花から宿根草の開花へのリレーは、計画どおりの順番ではなかったものの、自分が予想していたものを上回る素晴らしい景色を見ることができました。

夏場は、過繁茂をコントロールしつつ、乾燥対策と、植物の体力低下に気を配りました。デザインをする上でも、最後に(秋に)咲くものを最初に決めて、そこにどう着地させるかを考えてきたので、ここが山場でした。生産者としての経験を活かすことができたと思います。

一方、植物の詰め過ぎによる過繁茂、はじめて使った植物がうまく育たなかったり、逆に大きくなり過ぎたりといった失敗からの学びもたくさんありました。多くの人に手伝っていただき、一人ではできなかったこの経験を、今後、還元したいと思います。



Garden designer

鈴木 学 (宮城県伊具郡)

東京農工大学農学科卒業。ナーセリーに勤務後、2003年より、はるはなファームとして花苗の生産を行い、ナチュラルスティックガーデンに合う植物を中心に、年間約800種類、50万ポットを栽培。「Piet Oudolf Garden Tokyo」において、ヘッドガーデナー永村裕子氏の補佐役として関わり、植栽用の宿根草苗の供給とメンテナンスなどにも参画。



グランプリ

Garden Sensuous

ガーデン・センシュアス

Garden designer

GreenPlace (埼玉県朝霞市) 山越健造

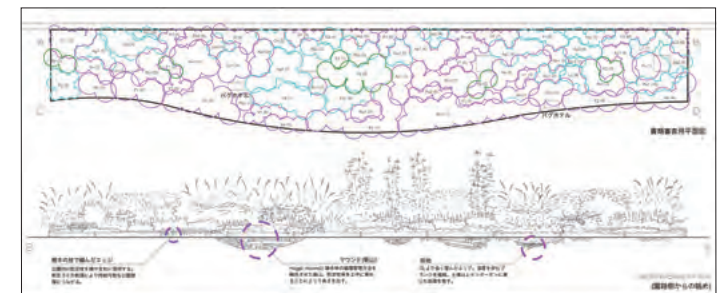
●主な植物リスト

〈Spring〉アスチルベ/アガパンサス/ガウラ/カラミンサ
 〈Summer〉エキナセア/ヘレニウム/ルドベキア/ガイラルディア/アガスターシェ/ヘリオプシス/バーベナ/リアトリス
 〈Autumn〉オミナエシ/オトコエシ/フジバカマ
 〈Ground cover〉オレガノ/レモンバーム/ワイルドストロベリー
 〈Grass 他〉イトススキ/ペニセタム/フェンネル など 合計 65 種

作品のテーマ・創作的意図

私たちの感覚に訴えかけるガーデン、Garden Sensuous。
 日本の古の歌人・俳人たちは、森羅万象、感情の機微や情緒、美しい風景を歌に詠んできました。その美しさへの眼差しは自然環境への知見を踏まえた、高度に知的で文化的なものであったと考えられます。そしていま、これからの環境について考える場合、サステナブルやエシカルであることは、無視できないトピックです。
 サステナブルなガーデンであること、エシカルなガーデンであることが、人の感覚に訴えかける条件の一つであると考えます。また私たちの感覚に訴える美しさとはそういったものであって欲しい、という願いを込めてこの庭をデザインしました。

左上・上/各植物のボリュームが一段と増した6月中旬。植物の高低差がリズムカルです。花々の中で昆虫が休んでいる様子も見られます。



応募時に提出された植物の配置図と園路側から見た断面図。



5月までは場所が確認できていた4つのバグホテル（虫たちの住処になる場所）が隠れるほど各植物のボリュームが増し、花の彩りも豊かな7月中旬。



2月



3月



4月



5月



6月



7月



7月



8月



9月



10月



11月



Garden designer

GreenPlace（埼玉県朝霞市） 山越健造

1998年にロンドンのInchbald School of Design Diploma in Garden Designを卒業後、山越健造デザインスタジオ設立。本田技研工業研究所テストコース植栽計画、日本庭園の設計・施工・メンテナンスに参加するほか、個人庭や店舗、施設の設計・デザイン・施工など幅広く行う。GreenPlace(代表：高橋三和子) とのユニットによる出展。

審査員講評

緩やかなアンジュレーションと植栽との基本構成がしっかりしていて、年間を通して安心して見ていられるガーデンでした。厳しい夏を超えてなお目立ったダメージも少なく、全体としては自然風のガーデンである中で植栽配置が季節ごとにきちんと秩序を保ち、公共のガーデンにおける理想の新しい庭を見て

いるようでした。

緑の質感と色のグラデーションが印象的で、エッジの曲線を活かした公園風景との一体感・透明感の作り方にも技術の高さを感じます。コンセプトの通り、来園者の感覚に優しく、静かに訴えかけるガーデンが見事に表現されていました。

【授賞者のコメント】

「持続可能なロングライフ、ローメンテナンス」であることが、植物だけではなく、パブリックスペースの植栽スペースとして、風景や環境としてもデザイン、計画されていることが私たちのガーデンの特徴の一つです。

それを季節の移り変わりのなかで表現するために、計画の実践やメンテナンスを約一年間通してできたことはとても貴重な経験でした。

このガーデンを目にした方々、来園者、審査員の方々、関わって頂いた方々からの多様な言葉やご指摘、感想を今後につけていきたい所存です。
山越健造

代々木公園という公共の場所に、長期間のメンテナンスを含めた宿根草中心の庭を造るという新たな試みに関わることができて、とても貴重な経験になりました。今回のアワードを企画、実行していただいた主催者、関係者の皆様に感謝いたします。

今年は例年とは違う気候が続き、自分の経験通りにいかないことも多くありました。特に夏は想像以上に高温が続き、耐暑性や乾燥対策など多くの考慮すべき課題に直面しました。今回の経験を活かし今後もサステナブルでエシカルな庭づくりを通して、これらの課題に取り組んでいきたいと思います。準備期間の短いなか最後までやり通すことができたのは、たくさんの仲間たちの協力のおかげです。

高橋三和子

11月



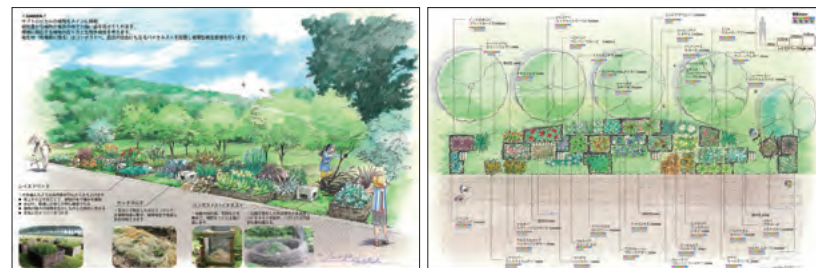


TOKYO NEO TROPIC

トウキョウ・ネオ・トロピック

Garden designer

西武造園 永江晴子（東京都豊島区）



応募時に提出されたイメージスケッチと計画平面図。



剪定枝で丸く積み重ね、落ち葉などを入れて堆肥を作るバイオネストも設置。



作品のテーマ・創作的意図

地球温暖化と共に東京で越冬するようになった亜熱帯植物を取り入れ、花壇をつくります。また「循環型再生管理」を目指し、維持管理の過程で発生する植物の発生材は現場で更新、循環するガーデンをつくります。亜熱帯植物が力強く越冬する姿から緑のうおいとあわせ、環境への意識

「地球温暖化への警鐘」のきっかけをつくります。そして、地球温暖化による気温上昇、豪雨などの異常気象が多発するなかで、改めて「植物」や「土」の環境改善の役割を見つめ直し、緑の大切さを発信します。

左／エンセテが大きく育ち、存在感が増す10月。
右／植物に彩られた広場では、ピクニックを楽しむ姿もあり賑やか。



2月



4月



3月



5月



6月



7月



●主な植物リスト

〈PURPLE〉 アンドロポゴン'ブラックホース' /アスター'レディーインブラック'
 /リグラリア'ミッドナイトレディ'/アルストロメリア'インディアンサマー'/エ
 ンセテ'マウエリー'/ユーホルピア'ブラックバード'/カレックス'プレーリーファ
 イヤー'/リシマキア'ファイヤークラッカー'/パニカム'チョコラータ'/ニュー
 サイラン'ピンクストライプ'/トラディスカンチア'ムラサキゴテン'/ダリア
〈SILVER〉 ルドベキア'マキシマ'/リクニス'コロナリア'/アガベ'姫滝の白糸'
 /アガベ'ボッテリー'/ユーホルピア/スティパ/エルサレムセージ/パンパスグ
 ラス
〈GREEN〉 ユーパトリウム'グリーンフェザー'/トリトマ'アイスクイーン'/アロ
 エベラ/ナチシダ/アガパンサス/ストレリチア/ガウラ'クールブリーズ'/アス
 パラガス'マコワニー'/アガスターシェ'ブラックアダー'
〈YELLOW〉 ワイルドストロベリー'ゴールドン アレキサンドリア'/ジャズミン
 'フィオナサンライズ'/カンナ'ベンガルタイガー'
〈GROUND COVER〉 クリーピングタイム/エリゲロン/スイセン'チタテート'
 /チューリップ'タルダ'/ハナニラ/アリウム'サマービューティ'/ゼフィランサ
 ス/イベリス 合計40種



8月



Garden designer

西武造園 永江晴子（東京都豊島区）

恵泉女学園短期大学園芸生活学科を卒業後、西武造園株式会社に入社。公共施設における大規模花畑修景やハーブガーデンの監修、NHK総合「あさイチ「グリーンスタイル」"や、NHK Eテレ「趣味の園芸」等で講師としても出演。ハーブや宿根草を用いたローメンテナンスの花壇作り、蜜源を取り入れたナチュラルガーデンの計画を得意とする。

【授賞者のコメント】

応募に際しては、自分で務まるのか大変不安でしたが、今までにないコンテスト形式であることと、気候変動や地球温暖化等、環境に対する自分の思いを花壇という形で表現するチャンスだと思い、デザイン画を作成しました。メンバー間で一丸となってより伝わりやすい表現などを工夫し、審査のための資料を作成しました。

施工は新入社員にも参加してもらい、コンテストに関わったことは良い経験となったと思います。

苗の調達は思い通りに揃わなかったり、施工期間が冬季だったことを受け、生産農家にアドバイスをいただきながら無事材料を調達、植栽をすることができました。早春の芽吹きからスタートし、あっと言う間に夏を駆け抜け、秋、ほっとしたところです。

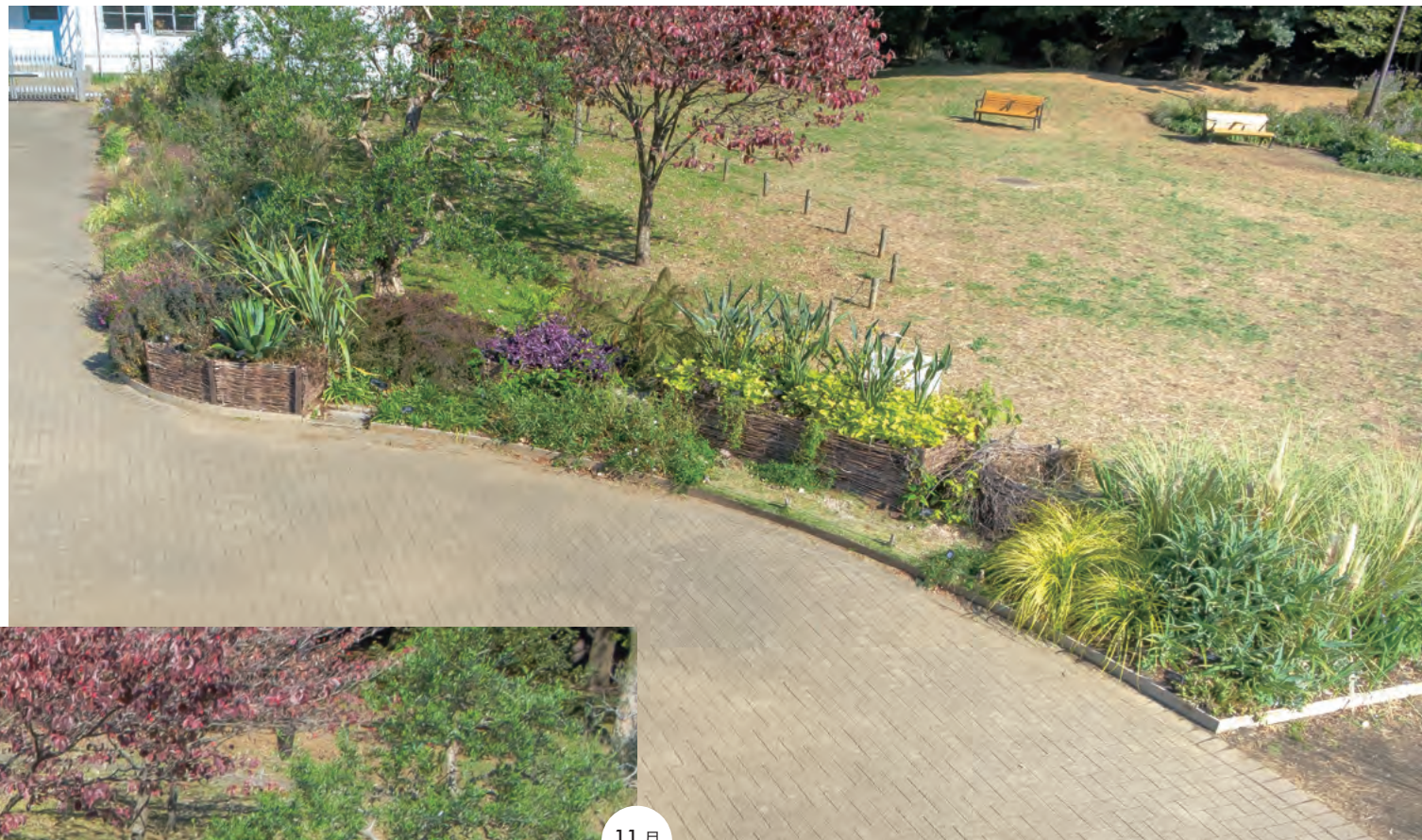
ローメンテナンス・ロングライフという大名目にプラスしてサステナブルというキーワードを入れて、私たちはコンポストボックスとバイオネストを設置し、実際ローメンテナンスになったことを実証でき、発見や学び、実りの多いコンテストとなりました。



9月



10月



11月

審査員講評

明確なコンセプトのもと、他には無い珍しい植物を存分に満喫する楽しみを来園者に提供してくれました。熱帯植物の彫刻的な美しさが、高低差のある植栽配置やレイズドベッドへの寄せ植えの手法でより引き立ち、ディテールを鑑賞する楽しさや芸術性を感じながらガーデンを見ることができました。

バイオネストの活用をはじめ年間を通じてのローメンテナンス、また、熱帯植物を公園のガーデンに取り入れるという実験的な視点で挑んだ点も評価が高く、今後、気候変動への対応が益々求められる中で、植栽デザインの一つの解答になり得ると感じています。



丈高く伸びたアリウム 'サマードラマー' や '丹頂'が見ごろの6月中旬。



入賞

HARAJUKU 球 ガーデン

ハラジュク・キュー・ガーデン

Garden designer

平間淳子（東京都目黒区）



応募時に提出された6月のイメージ図と植物配置図。



4月中旬から18種のアリウムが咲き継ぎました。



●主な植物リスト

アリウム／ダリア／エキナセア／モナルダ／ワレモコウ／ゲウム リバレ／ムスカリ／ニゲラ／カカリヤ／バーノニア／エリンジウム／ディアネラ／ユーバトリウム チョコレート／ヘレニウム オータムロリポップ／パニカム／ニューサイラン／カレックス／デスカンプシア ゴールドタウ など 合計 88 種

作品のテーマ・創作意図

初夏からのアリウム～秋のダリアを中心とした、球状の花の組み合わせでポップに楽しく魅せるガーデンです。アリウムはその形状が非常にユニークかつアートの、原宿に集う人々のアンテナに触れる植物ではないでしょうか。

ほかにも、エリンジウムやヘレニウム‘オータムロリポップ’、モナルダ、ニゲラの花後の球果な

ど、観て楽しい植物で構成しました。

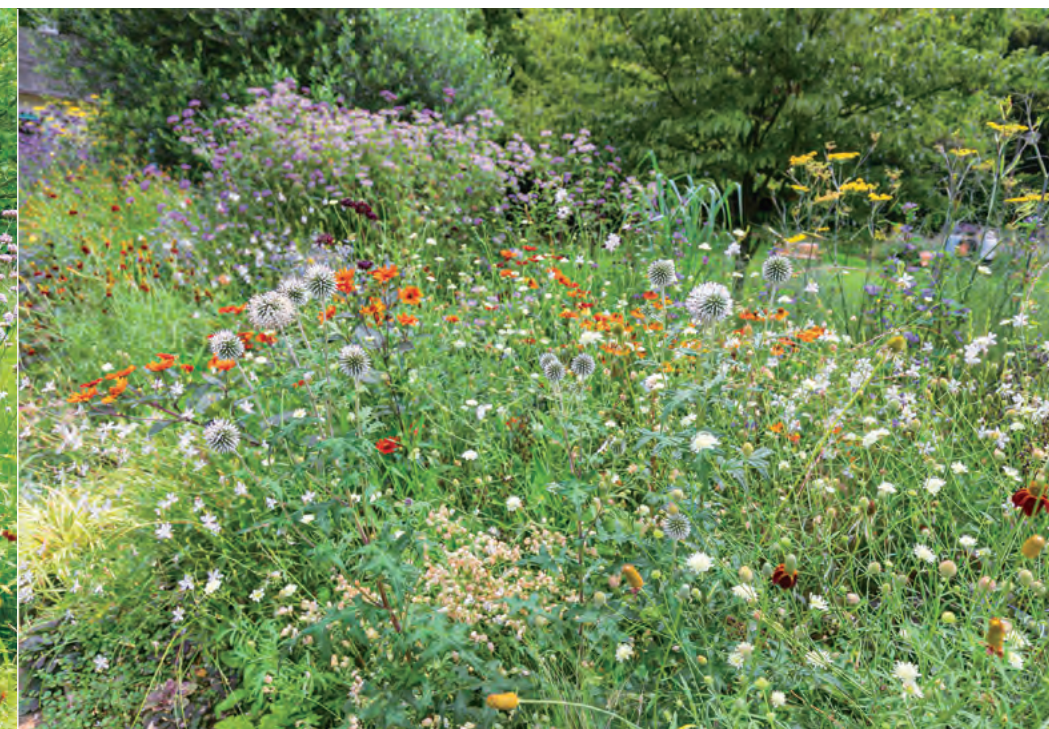
また、秋のダリアはデスカンプシア‘ゴールドタウ’との合わせで、一見存在が浮いて見えてしまいがちなダリアを、幻想的に他の植物たちと融合させます。「球ガーデン」のネーミングは、某超有名ガーデンを原宿ならではの遊び心でもじらせていただきました。



2月



3月





8月



9月



10月



11月



審査員講評

タイトル通り、それぞれの季節に浮き上がる球状の花・植物が魅力的な、非常にビジュアルなガーデンでした。色調が統一された植栽は可愛らしさとシックさを両立しており、洗練されたお洒落さと、オリンピック記念宿舎を背景にした際のフォトジェニックさが特に際立ち、HARAJUKUという場所にマッチしています。ディテールにセンスの光る植栽デザインが垣間見えると共に、一般の庭づくりでも参考になる部分が多く見られた点も来園者に喜ばれたと評価します。デザイナーの世界観が十分に表現され、その温かな想いや愛情が伝わってくるガーデンでした。

【授賞者のコメント】

入賞の知らせを受けてから早1年。あっという間の1年でした。当初は根拠のない自信だけがありやる気に満ち溢れておりましたが、実際に植え込みが終わり、春の訪れを迎え、他のガーデンが春の花を咲かせる中、球ガーデンの目玉であるアリウム待ちの寂しい地面の時間は不安で不安で仕方ありませんでした。しかし、アリウムが咲き始めると他の花々も想像以上のパフォーマンスをみせてくれて、自然の力に本当に感動しっぱなしでした。ほぼ降雨のなかった7月を灌水で乗り越え、どうしても防ぐことの出来なかった白絹病にはかなりの数の苗をやられまし



Garden designer

平間淳子（東京都目黒区）

多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。CMディレクターとして働きながら、2018年に都内を中心にガーデナーとして活動開始。2019年は、ポール・スミザー氏のプランツコースを受講。

たが、春に蒔いた種から育った花が夏に絶える事なく秋にはしっかり咲いてくれました。思い通りにいかなかった事もたくさんありましたが、うまくいかなかった理由を知る事で、次にしっかりと活かしていけると思います。駆け出しガーデナーとしてこれ以上の体験は無いほどに全てが私の血となり肉となりました。見に来て下さった方々が「素敵ね」と声をかけてくださって本当に幸せでした。こんな私に代々木公園にガーデンを作らせて下さってありがとうございました。感謝しかありません。素晴らしい1年でした。



TOKYO PARK GARDEN AWARD

@ 代々木公園

第1回東京パークガーデンアワード
これまでの活動はこちら



第1回 東京パークガーデンアワード 代々木公園
2022年10月～2023年11月 コンテスト作品集

2024年2月
発行 公益財団法人 東京都公園協会

TOKYO PARK GARDEN AWARD

@ 神代植物公園

第2回東京パークガーデンアワード
現在の活動はこちら





この事業に関するお問合せ

事務局：東京都公園協会 公益事業推進課内
メール：tokyo-pga.sm@tokyo-park.or.jp

緑と水 まちを豊かに 一尽さない可能性を追い求めます
公益財団法人 東京都公園協会
Tokyo Metropolitan Park Association

 Tokyo park
都市公園制度制定150周年
150 years